

「蕨山反射炉」を世界文化遺産に！

号外

(2013.1)



蕨山反射炉<写真:伊豆の国市提供>

静岡県のもうひとつの世界遺産候補
「蕨山反射炉」が世界文化遺産を目指します

昨年8月29日から9月5日にかけて、世界文化遺産登録を目指す「富士山」のイ・モスによる現地調査が行われました。今後は、平成25年6月の第37回世界遺産委員会において登録の可否が決定します。この「富士山」と同様に世界文化遺産への登録を目指している資産が、静岡県にはもうひとつあります。「九州・山口の近代化産業遺産群」の構成資産に選定された伊豆の国市の「蕨山反射炉」です。

「九州・山口の近代化産業遺産群」の世界文化遺産登録に向け、平成20年10月29日に世界遺産登録推進協議会が設置され、平成21年1月には、世界遺産暫定一覧表へ記載されました。その後、専門家委員会等において構成資産の決定や推薦書案の検討を行うなど、世界文化遺産登録に向けた取組が加速しています。

蕨山反射炉は、平成23年6月に同遺産群の構成資産候補に追加され、平成24年7月に構成資産に決定しました。平成23年6月から伊豆の国市が、平成24年4月から静岡県が同遺産群の世界遺産登録推進協議会に参加し、九州・山口の関係自治体等と連携しながら、世界文化遺産登録に向けた取組を推進しています。

News List

- ◎世界文化遺産を目指す「九州・山口の近代化産業遺産群」とは
- ◎構成資産「蕨山反射炉」
- ◎「九州・山口の近代化産業遺産群」の構成資産
- ◎蕨山反射炉世界文化遺産登録のこれまでの道のりと今後の予定
- ◎蕨山反射炉応援団が発足

世界文化遺産登録を目指す 「九州・山口の近代化産業遺産群」とは…

我が国は、幕末における西洋

技術の導入を契機に、極めて短期間のうちに、西洋以外の地域で初めて近代工業化を果たし、飛躍的な発展を遂げました。こうした日本の産業工業化を物語る工場跡や炭鉱跡を「近代化産業遺産」といいます。

九州・山口地方は、日本列島の最西端のアジア大陸に最も近接する位置にあり、古代より海外からの文化と技術の玄関口でした。世界に対する日本の窓口

としての役割を果たした歴史・地理的な要素が重なって、工業国家日本を物語る資産が主に九州・山口の地に集中しました。そこに九州・山口の藩と技術交流があった葦山反射炉（伊豆の国市）と橋野高炉跡（岩手県釜石市）が加わり、「九州・山口の近代化産業遺産群」として平成27年の世界文化遺産登録

を目指しています。

構成資産の検討に当たっては、一八五〇年から一九一〇年にかけて短期間に飛躍的な発展を遂げる原動力となった複数の資産を、共通のテーマでつなぐ方式（シリアルノミネーション）を採用しました。8エリアで構成され、28の構成資産から成り立っており、これらの資産は相互に関連しています。

本遺産群の構成資産には、稼働中の製鉄所や造船所なども含まれているため、それらを所有・管理する民間企業が参画しやすい新たな枠組みが昨年5月に閣議決定されました。このことによって、国が文化財指定していない場合でも推薦できるような条件が緩和され、新たな枠組みに基づいた世界遺産登録への取組を進めています。

構成資産「葦山反射炉」

天保11年（一八四〇）のアヘン戦争を契機に、列強諸国による植民地政策に危機感を覚えた幕府にとって、西洋砲術の導入等による軍事力強化が課題となりました。嘉永6年（一八五三）、ペリーが浦賀に来航して開港を迫ると、幕府は、江戸湾防備のための台場（砲台）を品川沖に築くことを決定し、台場に設置する大砲鑄造用の反射炉築造を江川英龍（ひでたう たんなん）に命じました。英



〈写真:伊豆の国市提供〉

龍は、当初、伊豆下田の本郷にて築造を開始しましたが、翌年に下田に入港したペリー艦隊の水兵が敷地内に侵入したため、築造場所を葦山に変更しました。安政2年（一八五五）、英龍が死亡すると、息子の英敏（ひでとし）が引き継ぎ、安政4年（一八五七）に完成させました。葦山反射炉は、現存する反射炉としては国内最古の遺産であり、世界で唯一残る実際に稼働した反射炉として高い評価を得ています。

なお、反射炉の築造にあたって、英敏は佐賀藩の技師を招き、佐賀藩の反射炉築造の技術を学ぶという技術の交流があったことから、世界文化遺産登録を目指す「九州・山口の近代化産業遺産群」の構成資産になりました。

「九州・山口の近代化産業遺産群」の 構成資産(8エリア28資産)



エリア①

萩の工業化初期の時代の関連資産と徳川(江戸)時代の文化背景(山口県萩市)



萩城下町



萩反射炉



恵美須ヶ鼻造船所跡



大板山たたら製鉄遺跡



松下村塾

エリア②

集成館の先駆的工場群(鹿児島県鹿児島市)



旧集成館



旧集成館機械工場



旧鹿児島紡績所技師館

エリア③

佐賀(佐賀県佐賀市)



三重津海軍所跡

エリア④

韮山反射炉
(静岡県伊豆の国市)



韮山反射炉

エリア⑤

橋野鉄鉱山と製鉄遺跡
(岩手県釜石市)



橋野高炉跡及び関連施設

エリア⑥

三菱長崎造船所施設、炭坑の島、その他関連施設(長崎県長崎市)



小菅修船場跡



高島炭坑



端島炭坑



旧グラバー住宅

◎長崎造船所関連施設
(向島第三ドック、旧鑄物工場併設木型場、
ハンマーヘッド型起重機、占勝閣も含まれます。)

エリア⑦

三池炭鉱、鉄道、港湾(福岡市大牟田市、熊本県荒尾市・宇城市)



三池炭鉱宮原坑施設



三池炭鉱万田坑施設



三池炭鉱専用鉄道敷



三池港



三角西(旧)港施設

エリア⑧

八幡製鐵所(福岡県北九州市、中間市)



旧日本事務所(非公開施設)
(写真:新日鐵住金㈱/八幡製鐵所提供)

◎修繕工場、
遠賀川水源ポンプ室も
含まれます。



旧鍛冶工場(非公開施設)
(写真:新日鐵住金㈱/八幡製鐵所提供)

韮山反射炉世界文化遺産登録のこれまでの道のりと今後の予定

これまでの道のり

◎平成20年度

- 関係自治体による「世界遺産登録推進協議会」を設置(10月、事務局は鹿児島県)
- 世界文化遺産暫定一覧表に「九州・山口の近代化産業遺産群」が追加記載(平成21年1月)

◎平成22年度

- 専門家委員会が推薦書原案を取りまとめ(平成23年2月)

◎平成23年度

- 韮山反射炉が構成資産候補に追加(6月)
- 伊豆の国市が協議会に参加、静岡県はオブザーバー(6月)

◎平成24年度

- 静岡県が協議会に参加(4月)
- 韮山反射炉を含む28件が構成資産に決定(7月)

今後の予定

◎平成24年度

- 推薦書案及び保全管理計画案の作成等(平成25年3月まで)

◎平成25年度

- 協議会事務局が推薦書案を内閣官房へ提出(4月)
- 日本政府が推薦書(暫定版)をユネスコへ提出(9月)
- 日本政府が推薦書(正式版)をユネスコへ提出(平成26年2月1日まで)

◎平成26年度

- イコモス(国際記念物遺跡会議)による現地調査(夏～秋)

◎平成27年度

- イコモスによる評価結果の勧告(5月頃)
- 世界遺産委員会での審議により、登録の可否が決定(夏)

伊豆の国市世界遺産推進課

〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡346-1 あやめ会館2階 <http://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/hansyaro/>
TEL.055-948-1425 FAX.055-949-8601 e-mail kikaku@city.izunokuni.shizuoka.jp



反射炉模型には会員の
名前シールが貼られている
(韮山反射炉事務所)
平成24年11月末現在の会員数は、2,318人

韮山反射炉応援団が発足!

韮山反射炉の世界遺産登録への支援を目的に、昨年4月、「韮山反射炉の世界遺産登録を支援する会(通称:韮山反射炉応援団)」が発足しました。会員には会員証が発行されます。会員証にはスタンプ欄があり、反射炉を見学したり、イベントに参加したりしてスタンプをためると会員証がグレードアップします。市民が一体となって取組を進めていくことによって、韮山反射炉の世界文化遺産登録の早期実現を目指します。

韮山反射炉応援団 <http://hansyaro.net/>

発行 静岡県文化・観光部 文化学術局 世界遺産推進課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 <http://fujisan-3776.jp>
TEL.054-221-3746 FAX.054-221-2827 e-mail sekai@pref.shizuoka.lg.jp